

## 放送番組審議会議事録

- 1 開催年月日 平成 28 年 10 月 12 日 [木] 19:00～
- 2 開催場所 奄美市名瀬金久町 4 番 3 号 2 階 あまみエフエム会議室 にて
- 3 出席委員 委員総数 7 名 出席委員数名  
出席委員の氏名  
藤井 琢磨／玉野 梨沙／星村 文乃／迫田 真吾／徳山 貴広  
放送事業者側出席者名  
麓 憲吾／丸田 泰史／沖元 眞実／渡 陽子／手蓑慎之祐／作井 美由紀

- 4 議題  
審議(「シマグチ NEWS しまゆむ TIME」)

- 5 議事の概要  
(1)審議(「シマグチ NEWS しまゆむ TIME」)  
(2)次回の審議議題について

- 6 審議内容  
(1) 番組内容の審議(「シマグチ NEWS しまゆむ TIME」)

### 藤井委員長：

本日の議題ですが、「シマグチ NEWS しまゆむ TIME」です。

内容は、「シマユムタ伝える会」はじめ、奄美群島の各島々・シマジマの出身者の協力をいただきながら、それぞれのシマのシマグチ（方言）で島のニュースを紹介する番組です。島の文化ともいえる「シマグチ」の普及・啓発に努めようと企画されています。

番組を聴いての感想などを、みなさんからきいていきたいと思います。まずは、徳山委員からお願いします。

### 徳山委員：

シマグチの放送ということで、地元ならではのやり方で、面白いなと思いました。出演している人たちの語り口調がそれぞれ違って、面白い。その反面、シマグチが分からない人には、楽しめないかもしれないと思いました。もし可能であれば、副音声のような、通訳のようなものがあれば分かりやすいんじゃないかと思いました。

### 藤井委員長：

わたしは、島に来て 2 年目で、シマグチがわからないので、内容は全然理解できませんでした。沖縄に長く住んでいたのも、本当に内地から来てすぐの人に比べたら、似ているところがあるので、少しは聞くことはできているかも。

時々、おしゃべりに夢中になると共通語も出てきて、このおしゃべり感は、聞き流していても楽しい番組だと思います。

沖縄でもありましたが、方言がどんどんなくなって行って、周りの若い人たちが聞いてもわからないってことがあったので、メディアとしては、こういった声を伝える番組は、積極的に残して行ってほしいと思います。

徳山委員と同じ意見なんですけど、シマグチがわからない人が、番組をきいて、シマグチがわからないために途中できくのを辞めるのは残念だと思います。合間で、パーソナリティが解説を入れたり、手間かもしれませんが、書き起こして、ホームページに載せるのもいいかなと思いました。

#### 迫田委員：

仕事しながら聞いたんですが、なにを言っているのかわからなかったので、手を止めて集中して聴きました。意味は全部わからなかったです。もし自分が島外にいて聴いた時に、この番組聴いて、雰囲気だけでも癒されるんだろうなと思いました。

世間話の中で「トンネルでライトをつけないやつがいる」とか、ところどころきけるところがありました。集落によって、言い回しも違ってくると思うので、そういった観点で聴くと面白いと思いました。意味知った方がいいのか、聞き流すだけでも意味がうつる（＝意味がわかる）のか、それか、意味の分かるじいちゃんばあちゃんと一緒に聴いたりするとか、いろんな聞き方があるなと思いました。自分のヒヤリング能力（の低さ）に、少し恥ずかしいなと思いました。

あと、方言をつかうなという運動があったとか。僕らのときには、「標準語をつかおう」という目標があった気がしたので、今とは逆だなと思いました。

#### 玉野委員：

（番組を聞いて）全部理解はできなかったです。ながら聞きでは、内容を理解するのは難しかったですね。方言を使う方が減る中で、残してほしいと思うのと、島外の人が聴いた時に理解が難しい、「？」な時間だろうなと思いました。いろんな番組がある中で、島の特異性が出るような番組なので、すごく味があっているなと思いました。あとで「こんな話だったよ」というのが、確認できたらいいなと思いました。

出演者が学校の先生が多くて、うちの母も、懐かしい、嬉しいというのと、奄美大島だけでなく、徳之島の阿権だったり、沖永良部島だったり、いろんなシマグチが入っているのが面白いね～、と言っていました。20分だったんですが、一生懸命聴いて20分以上の時間のように感じました。

#### 星村委員：

私は、内容はすごく理解できました。ただ、徳之島と沖永良部島の方は、わからなかった。勉強なるなと思いました。渡陽子さんの「ノってしゃべる」のが、すごく褒めたい、身近に感じてるのがわかったので、いいなと思いました。

話の引き出し方をおじいちゃん（年配の方）から、こどもまでこうやってやりとりをしていることがわかってよかったです。

#### 藤井委員長：

（和泉委員の意見代読）：きゅうや、大和村の運動会のサバクリのため、すみよらんばん、休ましてくりより。

訳もついています。（訳：今日は、大和村の運動会の準備のため、すみませんが休ませてください。）

(一同笑)

**藤井委員長：**

(代読)：8月14日放送分は、奄美まつりの身近な話題を方言で話され、よかったです。話の流れもよくきれいな方言です。きれいなどは、丁寧なということです。トンネルの話は、かがんばなトンネルや大和村もトンネルが多いので、トンネルの特徴を観光のひとつには、よい考えだと思いました。

渡陽子さんの子どもへのインタビューの話題にふれ、若い世代への期待を方言で褒めることは励みになると思います。

8月21日放送分については、盆のことにふれ、地区によって違うことがわかりました。こちらも方言はきれいでした。

私は方言がわかりましたが、審議委員およびディ！スタッフの反応が気になりました。奄美の方言は、ユネスコの危惧言語であることを啓発してほしい。方言には、日常会話や目上に対しての言葉もあるので、それも放送してほしい。

**藤井委員長：**

追加の感想など、ありませんか？

**星村委員：**

(番組に出演している)メンバーは、どういった方々なんですか？

**事務局 渡：**

メンバーは、奄美大島で何十人か。徳之島、沖永良部島からも何人かいます。与論出身の方はいません。喜界の出身の方は、お休みをしています。

もともと、この「シマユムタ伝える会」は、過去にあった「シマグチ大会」に出ていた方々を、山田薫さんたちがシマグチを残していく取り組みとして、集まったメンバーです。「シマユムタ伝える会」を中心としているんな集落の方々に来ていただいています。だいたい、3人をペアにするんですけど、その集落ごとに言葉もなまりも違うんです。あえて違う集落の組み合わせにしています。なまりを聴く人に、懐かしく思い出してほしいという思いで番組を作っています。

**星村委員：**

奄美大島外の方言は普段聞かないので、「あれ？出身って言われていたけど、わざわざ来たのかな？」と思いました。よくよく聞いていたら、今こちら(奄美大島・名瀬)に住んでいる方なんですね。

**事務局 渡：**

長く名瀬に住んでいるので、沖永良部島や徳之島の方が地元に戻った時には「あんたのは名瀬言葉じゃ」と言われたりするそうなんです。みなさんも意識しながら、シマのなまり・言葉を意識しながらしゃべっているようです。

わたしが番組を担当するようになって、沖永良部島や徳之島のシマグチも耳が慣れてきて、言葉がおもしろいなと思うようになりました。

島外の方には難しいかもしれませんが。島に何年も住んで、ずっと聴いてるとシマグチも理解できるように

なる、慣れてくると思います。うちの沖元もそうです。番組の目的は、島外にしゃべってもらうようになるというよりは、今わたしたちが残していくべき言語・なまりとか、今ばあちゃんたちがしゃべっている言葉であったり、ばあちゃんたちの生活とか生業とか、文化とか歴史とかを標準語で話すよりも、みんながずっとつないできた話し声というのを、どうにかして残せないかな、と自分では考えて取り組んでいます。

「ふとうばの日」というのが、2月18日にあるんですが、その日に併せて、副音声のように番組を作っていて、(方言の後の翻訳として)「なにを言っているんだい、かおるくん」「なにを言っているの、かおるにいさん」と言ってみたり。若い世代やわからない世代へ伝えていくための方法とはどういったことなのか、模索しながら、録り続けているだけになっていますが。番組の中で出てきた懐かしい言葉を一言でも、ブログなどで「こんなこと言ってますよ」とアップはできることだと思いました。みなさんのご意見はとても参考になりました。

#### 藤井委員長：

話をきいていると、島外向けというよりは、方言を残すのが第1の目的で、すごいなと思いました。残すというからには、世代が変わっていても残っていないやいけなくて、取組の方針としては、使っていて「懐かしい」ので次に伝えたいというのと、若い人が「おもしろいから聞きたい」と思うのが必要だと思います。

#### 事務局 渡：

2月18日が「ふとうばの日」といって、与論の言葉で「方言」のことを「ふとうば」といいます。その日には、あまみエフエムでも、一日方言を使って放送をしています。トライしてはいるんですが、敬語がバラバラだったり、自分たちが使えないことを改めて知らされるんですけど…その日は特番の中で、みんなが楽しめるように短いコーナーを増やしていきたいですね。

#### 星村委員：

自分もじいちゃんばあちゃんおばちゃんの中ですごしていたのですが、本当の方言ってわからないです。小さい頃はきれいな言葉だから懂れていました。うちの両親も、じいさんばあさんと話す時には、すべて敬語なんですよ。「やー」じゃなくて「なん」っていうし。自分も話したいけど、話せないワジワジ感(≒イライラ感)はよくわかります。きれいな言葉だけ、全部敬語の一文「シマグチひとフレーズ」を入れてみたら、少し口ずさめるんじゃないでしょうか。挨拶言葉だけでない、なにかができれば、シマグチを使えないシマッチュとしてはありがたいと思いました。

#### 事務局 丸田：

お話をしている3名の中で、3つのニュースを話してもらっています。その話をしてもらったあとに、フリーでトークをしてもらい、気になったことを言って、後半盛り上げていく。ご本人たちはニュースを変換して読んでるので、そこから離れたときにネイティブなほんとうにきれいな方言が出てくるので、このフレーズは残したい、というところを抜き出してつかってもいいなと思いました。

#### 星村委員：

会話の中で「●●兄さん、あなたからどうぞ」という言葉がきれいだと思います。

**迫田委員：**

島唄もプロの前で歌うよりも年上の人の前だと緊張すると聞いたことがあります。自分自身、うろ覚えのシマグチをつかっていて、「もしかしたら、先輩に失礼なことを言っているかもしれない」と思って、ドキッとしました。

**徳山委員：**

「ゆむた」というのは、「言葉」の意味なんですよ。

うちの母は、龍郷町の瀬留出身で、ばあちゃんは宇検村の名柄なんですけど、「ゆむた」の意味が違うので、注意を受けていたのを見たことがあります。同じ言葉でも、使い方が違うというのがありますよね。

**事務局 渡：**

「(宇検村では) ゆむた」というのは、あまりいい意味では使われていなくて、「シマユムタ伝える会」というのも、私自身、抵抗があったりします。

**事務局 丸田：**

特に、南大島の方から「ゆむたは、マイナスなイメージ、無駄なおしゃべり」といった意味だというのはよく言われます。私は笠利びき（笠利＝北大島、笠利の血をひいているの意）ですけど、特にそんな風（マイナスな感じ）には思ったことはないです。

**事務局 渡：**

集落の集まりの時に、間違った方言を使ったときに、先輩が諭すシーンを見ることがあるので、「あいがし、いうんじゃないぞー」という場面がよくあるので、みんなで勉強していかないと思いました。

**事務局 沖元：**

私は、島に来て、「～うじ」というのを尊称だと思って使っていたんですけど、60歳くらいの人に「～うじ」といって怒られたことがありました（「～うじ」は、年配の人の名前の後ろにつける言い方）。そういえば、女性にはいつまでたっても「～ねえ」と呼ぶよな…と思いました。そうやって、呼ぶ方が決めることではないんだな、と気がつきました。60歳くらいの人（うじいと呼ぶには若い人）にすごく失礼なことを言ってしまったんですが、今となっては、注意されてよかったです。

**事務局 丸田：**

愛称で「うじい」ということもあるんですよ。

**事務局 渡：**

人の近さ（親密度）にもよると思います。

**藤井委員長：**

その怒られる感じも、島のよくある風景という理解でいいんですかね。

**事務局 渡：**

シマユムタ伝える会のメンバーに、今里信弘あに（あに＝お兄さん）という方がいるんですけど、60歳で、シマユムタ伝える会の中では若手で、20歳くらいのときには全くシマグチが使えなかったそうです。集落の活動の中で、先輩と話をする中で、だんだん耳が慣れて来て、使えるようになって、時には「がしゅうな！（そんなこと言うな）」と注意を受けながら今があるそうです。深いな～といつも勉強になっています。

**玉野委員：**

（今から）30年後とかだったら、この番組は作りにくいかもしれませんね。このニュース以外でも、言い伝えなどを方言で紹介してもいいのではないかと思いました。

**事務局 渡：**

このコーナー以外でも、別番組でも試しながら（方言を）残していけるような、番組をつくりをしていきたいと思います。

**玉野委員：**

『きれいなシマグチ』のカルタとか、あってもおもしろいなと思いました。

**事務局 渡：**

方言の本などを見ることがよくあるんですが、学術的だなと思うんですね。生活の中の言葉、音声を伝える「ラジオ」は適していると思います。なまりをくいぐい（濃いぐい）と伝えて行けたらなと思います。

**藤井委員長：**

シマグチニュース以外に、「今日の格言」がけっこう好きです。番組のいろんなところに（シマグチが）ちりばめられていると、さりげなく聞いちゃう感じがいいと思います。オバとジジネタも好きです。

**徳山委員：**

シマユムタ伝える会は、メンバーは募集していたりするんですか？

**事務局 渡：**

この会は、定期的集まっているというわけではないんですが、「入りたい」という方がいれば、歓迎します。新たに入る方もいらっしゃいますので。

**徳山委員：**

番組の最後に、メンバー募集の案内を入れていたらどうでしょうか？

**星村委員：**

言葉がなくなると文化がなくなるとよくきくし、島言葉が標準語じゃないから蔑まれていたところから、こうやって復活・復調しているのは、すごいなと思いました。

**迫田委員：**

方言を残そうという動きって言うのはあるんですか？

**事務局 丸田：**

「ふとうばの日」というのが制定されたのは、大島郡の中で、方言を残そうという流れが大きくなって記念日を制定して、その日一日は盛り上げようという動きをしています。2月18日（ふとうば=方言）のところもあり、場所によっては6月2日（しまムニ=方言）のところもあります。

ふとうばの日に併せて、標語、挨拶編や自然編といったポスターが出てはいるのですが、世の中に出回っていないのが実情で、紹介はしていているところですよ。

**事務局 渡：**

今、保育園では、シマグチに変換した替え歌を教えているところがあるんですよ。わたしが子どもの頃にはなかったの、先生たちの努力もすごく感じます。龍郷町の大勝小学校は、朝昼夕方放送を全部シマグチでやっています。そういったところも紹介しながら、空気感をつくって、残していくことをしたいと思います。

**星村委員：**

（シマグチ）ラジオ体操も面白いですよ！すごい衝撃的でした。けど、やっぱり聞いてないとしゃべれない、聞いたことしか出てこないというか、しゃべれなくても100万回聞けば、そのうち出るかなーという気になりますよね。音声ってすごい大事だと思ってますね。

**迫田委員：**

3歳までに、ピアノとか聞かせると絶対音感ってできるらしいじゃないですか。その感覚で、シマグチを聞かせるといいんじゃないでしょうか。

**事務局 渡：**

「絶対シマグチ」というかんじですね。

一同笑

**迫田委員：**

シマグチでガイドしてくれる人がいたら、僕たち（島の人）が案内してもらってももおもしろいんじゃないかと思います。

**事務局 丸田：**

小さい頃から先生がシマの唄だったり、島唄をアレンジする「サーモン&ガーリック」（=島唄漫談ユニット）の楽曲だったり、方言が入っているので、そこで耳馴染みにしていると、すんなり入ってくるのかもしれないですね。

**事務局 渡：**

20年前に、会合の最初の挨拶に「うがみんしょうらん」という人はいなかったと思うんですよ。最近だと、言う人も増えて来たと思います。

ばあちゃんたちの会話をテープに録っている人がいて、聞かせてもらったんですが、懐かしくなって、タ

イムスリップした気分になって。もし、そういった昔録ったテープなどがあれば、聞かせてもらいたいです。

ここで、「ふとうばの日」に放送したものを少し紹介します。

(音源紹介)

**藤井委員長：**

何回か前の会議にもあったと思うんですけど、若者との会話となっていて、幅広い人に聞けると思います。面白いです。

**事務局 麓：**

先日、テレビ放送でも「シマグチ」について、あまみエフエムが出ていたのでこちらも少し紹介します。

(動画紹介)

一同：ありがとうございました。

**藤井委員長：**

他に、ご意見などがなければ、これで審議を終わりたいと思います。

(次回の番組審議会の日程を決めて、閉会)

7 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

次回審議会までに改善に努める

8 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

① 自社放送:平成 28 年 11 月 5 日(土曜日)6:30～放送

② 書面の備置き:平成 28 年 11 月 5 日(土曜日)から、当該事項を記載した書面(議事録)を問う法人事務局へ備置き、聴取者の閲覧希望に対応

③ インターネット:平成 28 年 11 月 5 日(土曜日)より当法人インターネットのホームページに転載

9 その他の参考事項 なし